

2009年3月5日

県民の政治意識
第28回モニター調査
報告書

(2009年2月13日～27日調査)

調査の設計	1
今回のポイント	2



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

調査の目的

発足半年に満たない麻生政権が早くもがけつぷちに追い込まれている。福田首相の突然の退陣を受け、政権に肉薄する民主党と対決する“選挙の顔”を担ったはずが、急テンポに悪化する世界的な経済危機の荒波にもまれ、最優先に掲げる景気対策の成否が見えないまま、内閣支持率が低下し続けている。

高い支持率を背にする米国のオバマ新大統領のリーダーシップに対する期待感とは対照的に、麻生首相は自らの相次ぐ失言、有力閣僚の不祥事による辞任で、自党内からも公然と退陣論が噴き出す事態になっている。

その一方で、政権交代の決戦として解散・総選挙を迫る民主党に対し、政策の整合性や小沢一郎代表のリーダーシップなど政権担当能力の吟味が厳しくなっている。内外の危機状況に対する緊張感を欠いた日本の議会政治そのものを、世論がどのように見つめ、今後に期待をつなごうとしているのか、協会モニターを対象とする第28回の定期調査で探る。

調査の設計

調査方法 当協会の登録モニターに事前に調査票を郵送し、回答は郵送、ファクス、電話聞き取り、インターネットを併用して回収。

【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に、政治意識調査を実施。その際、追跡調査に協力できるという人たち678人を対象に、選挙直後の同年7月に「参院選の投票行動」調査を行った。

これを「第1回モニター調査」と位置付け、1996年2月に男女別、年代別、選挙区別などの比率が“県下の有権者の縮図”となるように対象者を選定して第2回調査を行い、それ以降は半年間隔で年2回ずつ、定期的に続行している。この間、モニターは若干の補正を重ね、登録数は500人を維持している。

調査時期	2009年2月13日調査票発送～27日回収締め切り
有効回収数(率)	489人(回収率97.8% = 男性240人 女性249人)
回収内訳	郵送 251(51.3%)
	ファクス 133(27.2%)
	電話聞き取り 44(9.0%)
	インターネット 61(12.5%)

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

II 今回のポイント

解散・総選挙をにらむ動向

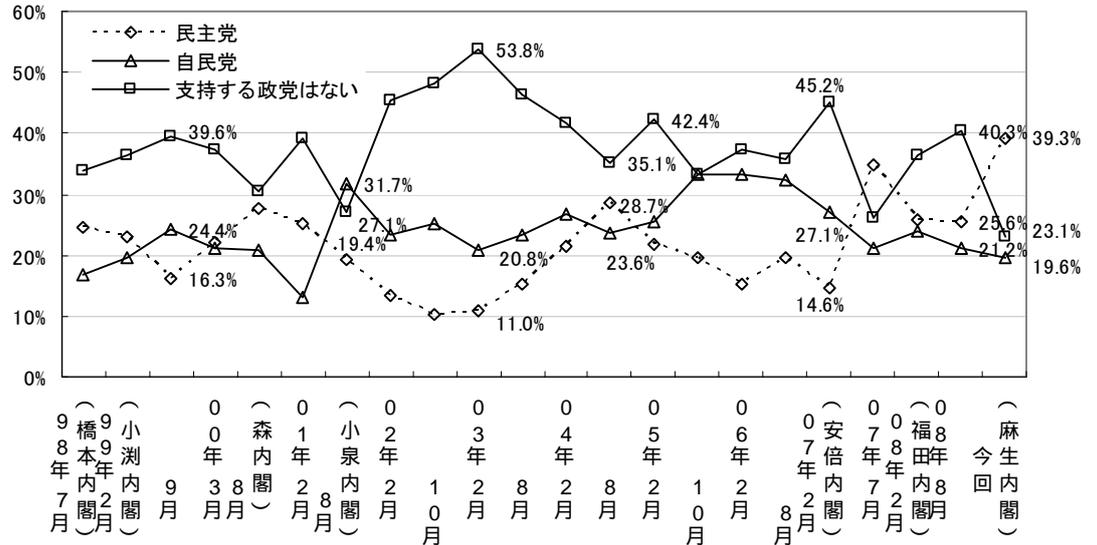
支持する政党

◆民主、過去最高39.3% 支持なし層さう 自民は微減19.6%

民主党が39.3%に大幅アップし、現在の党体制が確立された1998年春以降のモニター調査の最高をマークした。対照的に、自民党は前回調査(2008年8月=以下同じ)の緩やかな退潮が止まらず19.6%。支持政党なし層が民主党に移動する格好で大幅に減り23.1%。

3位からは4%台の僅差で共産党、公明党、社民党の順で並ぶ。

【政党支持の推移】



麻生内閣の評価

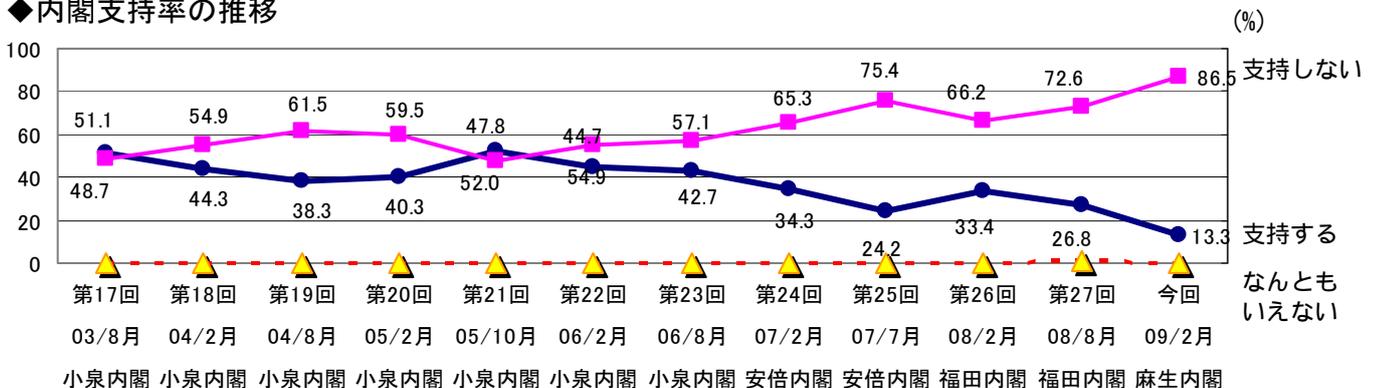
支持が13.3% 不支持は86.5%

「支持する」が13.3%と全く振るわず「支持しない」は86.5%で、その開きは70ポイント超。本調査開始から1995年の村山政権から通算8代の歴代内閣で、不支持が80%を超えたのは、2001年2月の森内閣の92.0%に次いで2度目。

<歴代内閣の平均支持率>

内閣	平均支持率 (%)	調査回数
村山内閣	37.2%	1回
橋本内閣	27.2%	6回
小渕内閣	17.5%	3回
森内閣	9.6%	2回
小泉内閣	41.3%	11回
安倍内閣	29.3%	2回
福田内閣	30.1%	2回
麻生内閣	13.3%	1回

◆内閣支持率の推移



	性別		年代			選挙区					政党支持		
	男性	女性	20代	40代	60代	1区	2区	3区	4区	5区	自民党	民主党	支持政党なし
支持	13.8%	12.9%	12.5%	8.1%	14.5%	13.7%	12.7%	12.2%	13.0%	15.1%	47.9%	1.0%	2.7%
不支持	86.3%	86.7%	87.5%	91.9%	85.5%	85.5%	87.3%	87.8%	87.0%	84.9%	52.1%	98.4%	97.3%

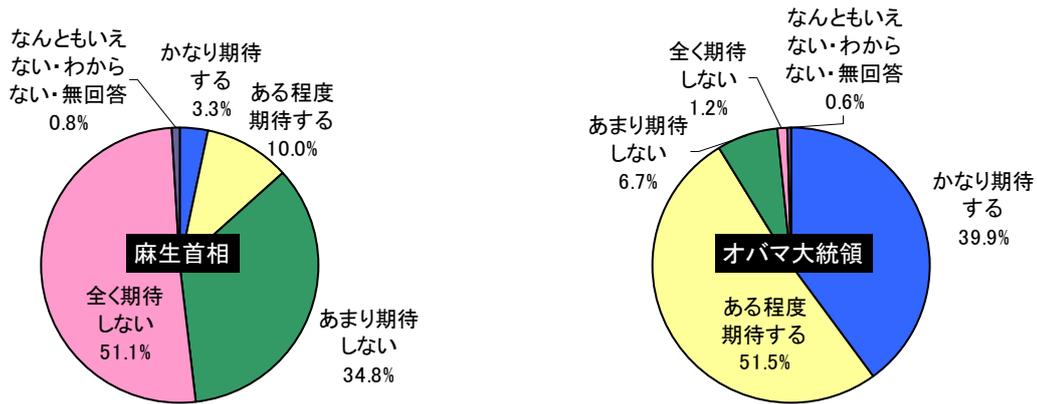
支持率の低迷 男女差・選挙区の違いなく

男女に評価の違いはなく、年代層は30～40代で支持が10%に届かず、辛うじて70歳以上（以下「70代」と略記）で支持が25%に伸びている程度。

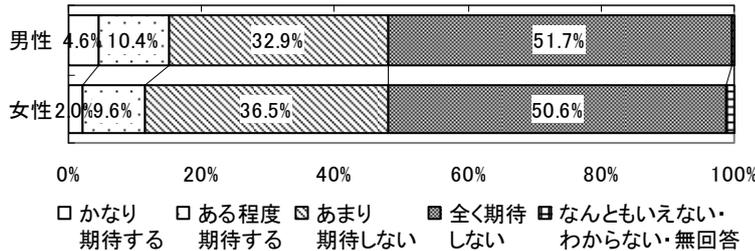
政権与党での自民党支持層でも不支持が半数を超え、公明党では64%と“離反”の気配が濃厚になっている。民主党、無党派層では不支持が大半を占める。

麻生首相のリーダーシップ

経済危機への手腕「期待する」13% オバマ大統領には90%突破



◆麻生首相～男女別では



経済危機に対する日米両国トップのリーダーシップについて、麻生首相に「期待する」が13%、オバマ大統領には91%と違いが明確に示された。麻生首相には70代の期待が約30%に高まるが、若い年代層では「期待しない」が90%台に跳ね上がる。

オバマ大統領には全年代層を通じて期待感が高く、総体では女性が高いが「かなり期待する」は男性で40%を超える。

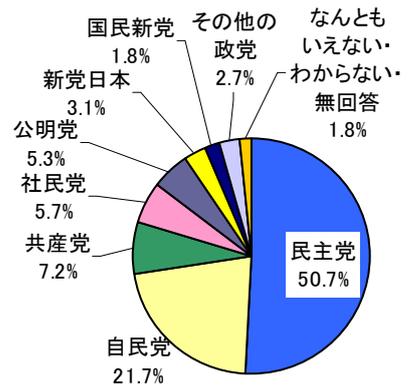
衆院選 いま投票するなら

◆「民主に」51% 自民22% 三番手に共産 続く社民、公明

民主党が支持率の急上昇を背景にほぼ半数を制し、自民党は22%と民主党の半分に届かない。三番手に共産党が食い込み7%。社民党、公明党が5%台で続く。

民主党には男性53% - 女性48%の濃淡があり、自民党はほぼ同列。共産党には女性が高めになっている。

年代層では30～60代で民主党が50%を超え、自民党は70代で32%と最も高くなっている。

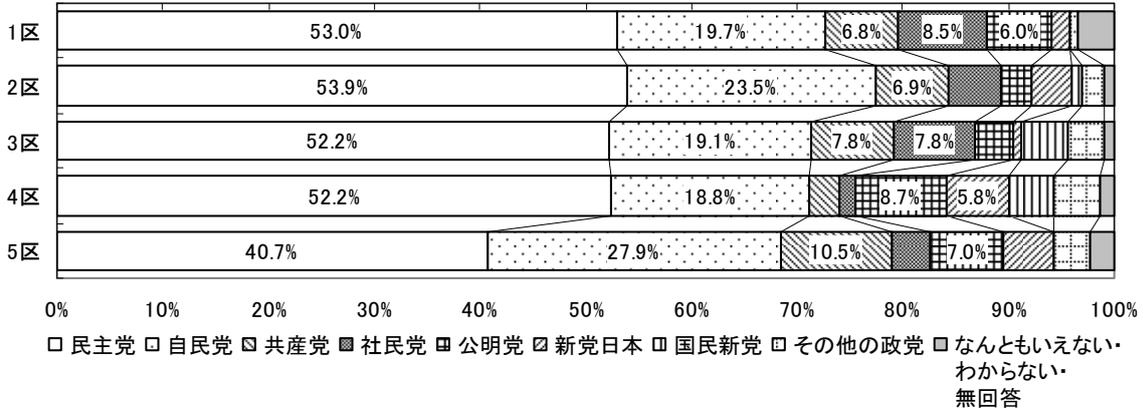


1区～4区で民主党が半数超

5区は民主 41% - 自民 28%

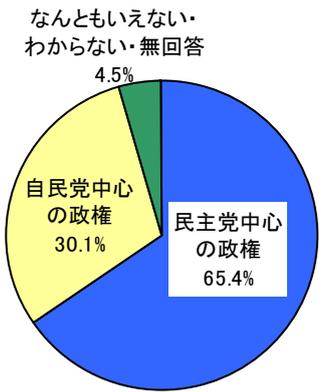
1区～4区で民主党が半数を超え、2区の54%が最も高い。5区では民主41% - 自民28%とやや接近し、共産党が10%台に乗せ、公明も伸びており、他区とは様相を異にする。

◆選挙区別では

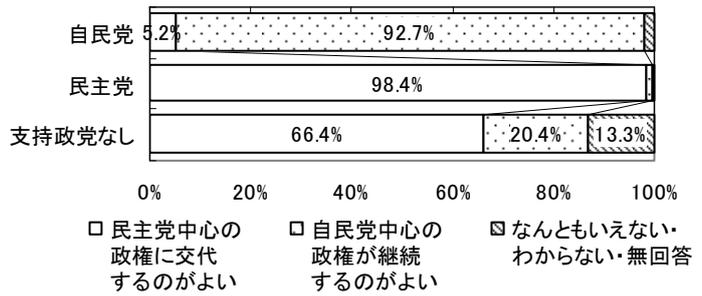


政権のあり方

◆「民主中心に交代」65% 「自民中心の継続」30%



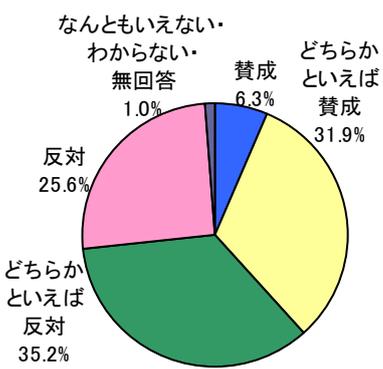
◆政権の継続か、交代か～政党支持との関連では



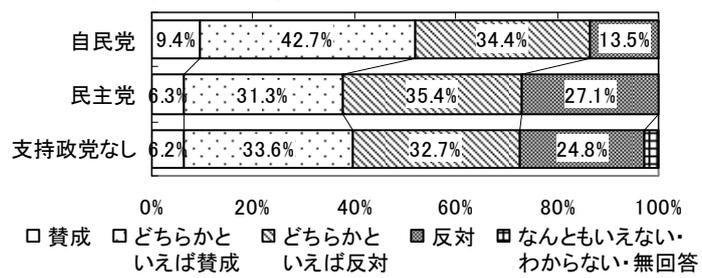
今後の政権の枠組みが「自民党中心の政権が継続するのがよい」が30%、「民主党中心の政権に交代するのがよい」が65%。政権交代は男性で約70%に高まり、20～30代でも同レベルの高さ。政権継続には40代と70代が35%と高めになる。

自民党の支持層は継続、民主党は交代が90%台の高率を示す中で、連立相手の公明党は継続が77%にトーンダウン。無党派層では交代66% - 継続20%に色分けされる。

◆ 自民・民主の大連立「賛成」38% 「反対」61%



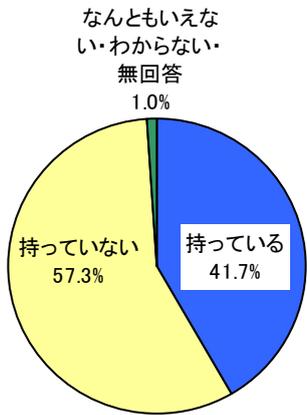
◆大連立～政党支持との関連では



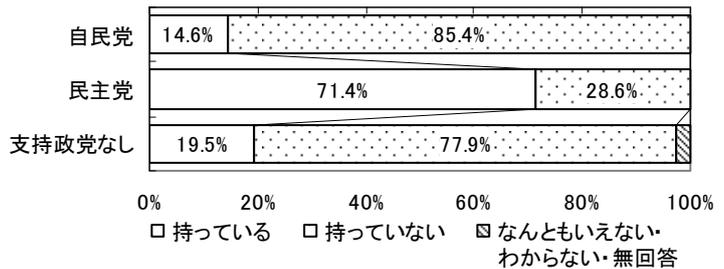
2大政党の大連立に「賛成」が38%、「反対」は61%と大きな差が生じた。女性で賛成が40%を超え、年代層では20代と40代でも高めになっている

自民党の支持層で賛成が半数を超すが、民主党では反対が60%台の高さ。無党派層は賛成40% - 反対58%。

◆小沢民主党に「担当能力ある」42% 否定的が過半数



◆民主党の政権担当能力～政党支持との関連では



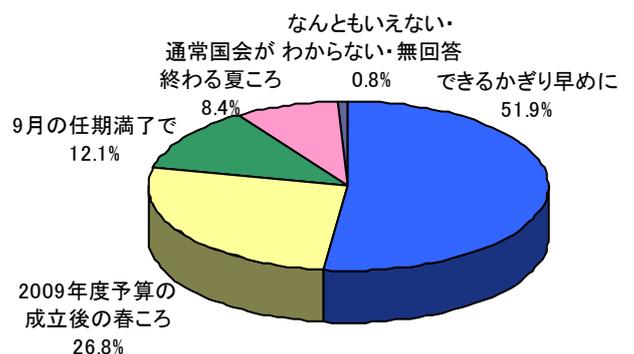
安全保障・外交路線、政策と財政の整合性、小沢代表のリーダーシップに収斂（れん）される民主党の政権担当能力について「持っている」が42%、「持っていない」57%。男女、全年代層を通じて否定的評価が半数を超えるが、肯定的評価は男性で48%で、40～50代でも高まる。

民主党の支持層は「持っている」が70%を超す半面「持っていない」が30%に迫る。無党派層では肯定的20% - 否定的78%と平均値よりも厳しい。

衆院選の時期 「できる限り早め」半数超す 「任期満了」減り12%

2009年度予算の今年度内成立が確定した中で「できるかぎり早めに」が半数を超え、前回調査の35%からさらに加速。「予算成立後」が27% 「任期満了」は12%に大幅ダウンし、早期実施を求める世論の風圧が増している。

「早め」と「予算成立後」の総体で、自民党の支持層で半数を超えており、民主党では90%台に乗り、無党派層でも80%に迫る。

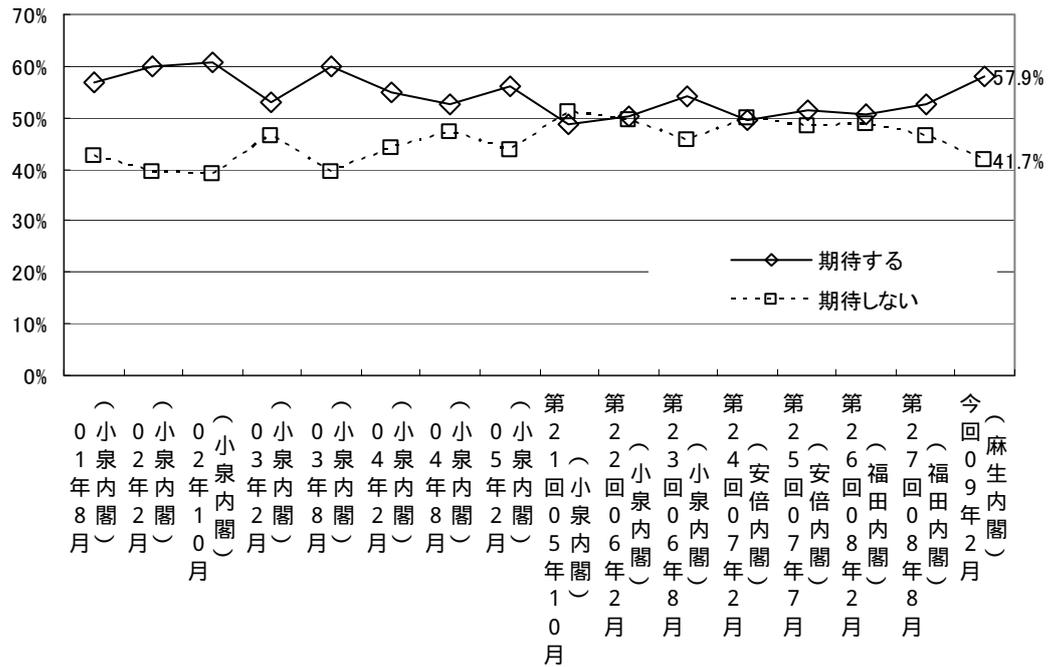


政治の再編成

「期待する」58% 「期待せず」との差広がる

「期待する」が58%に伸び「期待しない」は42%で、前回調査からはっきりし始めた「期待」優位の動きが強まった。

男性で期待が64%に高まり、女性との差が大きい。年代層では40～60代で高くなっている。



◆ 自、民、共、社の支持層「期待」半数超

公、無党派層は「期待せず」優位

政党支持層では自民、民主のほか、共産、社民で期待が半数を超えるが、公明、無党派層では「期待しない」が半数を超す。

◆ 政党支持との関連では

